

# えぬひい! Oh!

2012 夏  
Vol.51



►2P  
トンボの楽園で生き物さがし  
～あなたの原風景は何ですか～

►3P  
気仙沼・黒潮縁プロジェクト『かきくけこ計画』

►4~5P  
『お金のはなし』 Part4  
とさっ子タウンに見る「寄付つき商品」による資金集め

►6P  
「こらパ～」まつり実行委員会って?  
～地域と学生に架け橋を～

►7P  
サポートセンター事業のあ・れ・こ・れ  
～ボランティアガイダンス2012～



# トンボの楽園で生き物さがし

～あなたの原風景は何ですか～



▲生き物さがしゲームの開幕です。チーム対抗で、公園内に生息する生き物を採取します。生き物は、採取しやすい順に、1から5までのレベルに分けられています。一番早く、レベル5までの生き物を採取したチームが優勝です。



6月3日（日）、快晴の青空の下、SAVE JAPANプロジェクト『トンボのすむ里地を守ろう！－トンボの楽園で生き物さがし』が四十市町同のトンボ自然公園にて開催され、家族連れなど約100名の方が参加しました。



▲私は誰でしょう レベル3問題より  
「系統の古いチョウです」「ヨーロッパに分布しています」「日本産の仲間のハネには、目立つ斑紋はありません」「後バネに、赤いおしゃれな斑紋があります」「和面の一部が、月面着陸初成功した宇宙船と同じです」…分かりますか？皆、クイズカードを片手に、館内を猛ダッシュ！解答を探します。

△次に、場所を「とんぼ館」「さかな館」に移して、推理ゲーム・私は誰でしょう？を開催。館内展示を参考に、レベル1から5までのクイズに答えていきます。



△二種類の網とバケツを携えて、広い園内を探し回ります。「いたつ！」生き物を発見して、嬉々として目を光らせる子供たち。大人も子どもの頃に帰って、夢中で網を振り回します。

原風景がなかつたら、大人になつて自然を保護しようという気など生まれない。自然は放つておくのが良いという人がいるが、それは違う。人が入つて整備して、ある程度元の環境に戻つたら、少しずつ自然に返してあげる。君たちが大人になる頃には、環境を仕事にする時代になつてほしい

日が暮れるまで、虫取り網を振つてトンボや虫を捕まえて遊んだ子ども時代。そう、あの原風景がなければ、自然への愛着など生まれないのかもしない。草むらを分け入り、水路のザリガニと格闘し、池の泥に遊び、未知の生物との遭遇に心躍られ、五感をフルに使つて楽しんだ今回のイベントは、自然の中で遊ぶことがいかに豊かなことであるかを再確認させてくれました。

(青木)

SAVE JAPANプロジェクトとは、(株)損保ジャパンと地域のNPO等が一緒に、全国各地の「いきものが住みやすい環境づくり」を行うプロジェクトです。今回は、(特非)NPO高知市民会議、社団法人トンボと自然を考える会、(認定特非)日本NPOセンターと(株)損保ジャパンの共催で実施されました。

最後に、1985年から休耕田をトンボ保護区とするべく整備を開始し、スイレンやハンショウブなど四季の花咲く大小50余りのトンボ池に70種以上のトンボが飛び交うトンボ自然公園とし、今なお整備を進めている、社団法人トンボと自然を考える会の常務理事、杉村光俊さんのお話をみんなで聴きました。「子どもの頃、トンボを探るのが楽しかった。楽しくて仕方なくて、ただただ、網を振つた。ところが、突然の公共工事でトンボの住処を奪われた。そのとき、トンボの王国を造ることを誓つた。



# 氣仙沼∞黒潮逢縁プロジェクト 『かきくけこ計画』

(特定非営利活動法人NPO砂浜美術館)  
[寄稿文] 山本あやみ

## 自分たちの手で長く続けられる活動を

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市。気仙沼市は黒潮町とカツオ漁で大変ゆかりのあるまち。同じ海のそばの町に生きる者としてこれは決して他人事ではありません。少しでも力になりたいと思い、2011年5月気仙沼応援プロジェクト『かきくけこ計画』をスタートさせました。この災害を忘れない」「被災地の人々に寄り添う気持ちを長く持ち続ける」この2つを大きな目的とし自分たちの手で長く続けられる活動をしようと動き始めました。

## かきくけこ計画とは

昨年のTシャツアート展から始動した『かきくけこ計画』は、黒潮町の代名詞であるカツオとTシャツアート展を通じて気仙沼に元気を届けようという計画です。合言葉は”力”オトシヤツ・きたへ向かつて・くるしお発・けせんぬま行き・こころはひとつ!!”。この合言葉をもって気仙沼Tシャツアート展の開催をめざしています。

想いが込められた作品が一堂に集まり風に乗つてひらひらする風景は、前に進んでいくパワーや笑顔を生み出し、この大きな災害を改めて胸に刻みつける機会になると考えています。



時間の経過で震災の記憶が薄れつつある中、この活動は私たちにも参加者の方々にも被災地の状況に思いを寄せる機会となっています。

思っています。  
気仙沼Tシャツアート展にむけ、これまで様々なイベントでカツオTシャツ集めを行ってきました。一枚一枚に”FIGHT!”など気仙沼を想う気持ちが込められています。現在350枚、目標は600枚。Tシャツ集めはまだ続いている

また、Tシャツアート展の「見方を変え」と見慣れた風景ももまちづくりのヒントとなるのではない、私たちの町にあることこうした考え方をぜひ共有できればと思っています。



この気仙沼∞黒潮逢縁プロジェクトは、平成24年度高知県のNPOとの協働モデル事業（震災枠）に選定され県からの後押しをいたしました。6月までに3回開催する体制となりました。6月までに3回プロジェクトメンバーが気仙沼入りし調整を行ない、気仙沼市のみなさんと実際に進めていく段階に入っています。そして、気仙沼Tシャツアート展は今年10月6日～8日開催、マーケット支援は気仙沼朝市への支援が決まりました。さっそく6月初旬には気仙沼朝市へ津波で流されてしまったイベント用の大釜の提供が実現したところで



す動きをしており、「この災害を忘れずにいよいよ」という姿勢は私たちと同じものでした。

この気仙沼∞黒潮逢縁プロジェクトは、平成24年度高知県のNPOとの協働モデル事業（震災枠）に選定され県からの後押しをいたしました。6月までに3回開催する体制となりました。6月までに3回開催

この災害を忘れない」「被災地の人々に寄り添う気持ちを長く持ち続ける」という当初の目的を確認しながら、今後もプロジェクトを進めていきたいと思っています。

2012年に入り、同じ町内で被災地支援の動きを行っていたまちづくりマーケットプロジェクトと協働で気仙沼を応援していくことを立ち上げました。

まちづくりマーケットプロジェクトは、毎月第2日曜の海辺の日曜市で「3・11%プロジェクト」という1%募金を行い被災地で人が集う場となるマーケットなどの支援をめざ

# 『お金(ファンドレイジング)のはなし』Part4

とさっ子タウンに見る「寄付つき商品」による資金集め

企業がCSR活動の一環として行う全国的な「寄付つき商品」の全国的な取組みでは、ミネラルウォーター売り上げの一部で、ユニセフの活動を支援し、アフリカで飲料水を確保するための井戸づくり及び10年間のメンテナンスを行うものや、缶ビール1本に付き1円を販売地域の森づくり・水質保全活動事業に寄付する活動などが、よく知られている。NPO高知市民会議では、昨年からお香典を社会に生かす「天国からの寄付ぎふと」として、寺村葬儀社と共同で商品開発を行い、香典返しの一部を同会議を通じて複数のNPO団体に寄付するという事業を行っており、昨年度は10件で総計27万円の善意が6団体の活動に生かされてきた。

そんな中で、今年3月3日、高知市文化プラザ「かるぽーと」で開催された「ファンドレイジング・ジャパン in こうち」の取組み以降、高知でも地域密着型「寄付つき商品」の動きが活発になってきている。

今回は、そんな取組みの中から「とさっ子タウン」が仕掛ける「寄付つき商品」による資金集めを紹介する。

## 課題対応から生まれた 「寄付つき商品」

こどもたちが、仮想のまちの運営を体験することで、現実の「まちの運営」「社会のしくみ」「働くこと」等に関心を持つてもらうようと、2009年から「とさっ子タウン実行委員会」主催ではじめられた「とさっ子タウン」は、高知市総合運動場内の「りょうまスタジアム」を会場として開催してきた。会場を同スタジアムにしたのは、市内中心部に



◀「とさっ子広場」  
(とさっ子タウン2012より)

あり参加するこどもたちが公共機関や徒歩、自転車で来場できると、いう位置にあること、無料駐車場があること、高知市からの支援を受けて無償で利用ができることが主な理由である。

しかしながら、競輪事業との日程調整で毎年同期に会場を予約することができないため、こどもたちや保護者から開催月を確定して欲しいという声もある。がっている。

そこで、同実行委員会は、来年度から会場を「かるぽーと」に変更する予定であるが、会場費や駐車場料金等の課題があり、これに対応するには、従来どおりの企業協賛の方法だけでは難しくなってきていた。そこで、同実行委員会から、「寄付つき商品」の取組みが生まれた。



▲寄付つき商品のPR準備をする実行委員メンバー

## 応援「寄付つき商品」の広がり

①とさっ子駅弁  
トヨタ財団の助成を受け、土佐駅弁学会と「とさっ子タウン」に参加した子どもたちの有志が、「とさっ子駅弁開発プロジェクト」

を展開。高知ならではの食材研究、調理方法、

内容企画、販売戦略等の取組みを経て、JR四国及び有あんどう商店の協力も得て、3種類の新作駅弁を開発し、本年4月1日から高知駅で販売している。

1個に付き50円が寄付されるしくみで、販売開始以降6月末現在、総計3万8200円をいただいている。

## ②飲食店での寄付つきメニュー

4月からは、高知市内のイタリアンバル「バッフォーネ」に協力を依頼し、同店で販売されるジェノベーゼ(パジルパスタ)とインド産赤ワインを「寄付つき商品」として取り扱つてもらい始めた。メニューにはしっかりと1品につき100円が「とさっ子タウン」に寄付されると記されている。

こちらは、4月の販売開始以降6月12日在庫、総計2万2千円の寄付をいただいている。現在、他にも協力してくれる店が準備を進めている。



▲ジェノベーゼを持つ「バッフォーネ」のオーナーシェフの青野摩周さん  
あおのましゅう



▲高知県立大学の松崎名誉教授から学びながら、駅弁の試作をする「とさっ子駅弁開発プロジェクト」のこどもたち

# えぬひい！Oh!

△(株)サニーマートと四国明治乳業(株)の担当による  
「とさつ子タウン」についてプレゼンする実行委員



四国明治乳業(株)の担当者からは、「売り上げが上がる」とはもとより、地域に根ざした企業として消費者に認知してもらうことが、この取組みに協力する大きな意義だ」との言葉が寄せられている。

学生実行委員が、2社の営業担当にプレゼンを行い、販売担当会議でも力強く協力を依頼した。そして、販売開始日には、実行委員自らが店の売り場に立って消費者に声掛けするなど、精力的に販売促進を行った。

③「牛乳・ヨーグルトを買って、とさつ子タウンを応援しよう！」キャンペーン

7月7日から月末にかけて、「とさつ子タウン実行委員会 × (株)サニーマート × 四国明治乳業(株)のコラボレーション事業」として、四国内全店の(株)サニーマートで販売されるプライベートブランドの「高南台地牛乳」1㍑に付き1円の寄付が寄せられる取組みが行われた。

▽メニューには、「寄付つき商品」であることが囲み枠で記載されている

*Spaghetti alla caprese カブリ添スパゲティーニ 1300  
フレッシュモッツarella、トマト、フレッシュローリエ、ニンニク  
 Linguine alla genovese ジェノヴァ風リングエッティーネ 1300 + 100  
 フラッペリコパルム、パルメザン、ニンニク、他の実験ペーストのソース  
 この商品は100円寄付ギフトプロジェクトに寄附されます。  
 購買者だけでなく社会のために活動している人達をサポートしてもらっています。  
 この寄付は明治(株)主催の「チラシ作成実行委員会」によって作成されています。  
 ▪100円明治(株)よりトロフィーにてお作りする事も出来ます。*



▽「寄付つき商品」の牛乳を売り場でPRする実行委員



▲実行委員会で作成した  
キャンペーンチラシ



NPOが社会的使命を果たすことを目的として、事業を進めるための収入源には、会費収入、委託事業等、様々なものがあるが、寄付つき商品による収入確保は、地元企業とコラボし、住民にも愛着をもって支援してもらえる事業として、継続して安定的に事業収入が得られるだけでなく、広く一般に事業の周知が可能となる広報の側面も持っている。

昨年の3・11東日本大震災以降、多様な寄付が生まれ、国民に寄付への意識が広まっている感があるが、現金寄付は多額の収入が見込まれる一方、急速に関心が薄れていき長続きしないという点が指摘されている。

「寄付つき商品」は、その商品がスタンダードなものであればあるほど、息の長い収入が見込まれる事業であり、日本人の気質にあつたものと思われる。

ファンドレイジングの講演で、何度も高知にも来られている日本ファンドレイジング協会の鵜尾雅隆氏の「寄付文化の革新は、地域の善意の資金循環から起る」という言葉を改めて思い出し、今後の高知における寄付つき商品の発展に期待したい。

(森岡)

## 今後のNPOの資金集め



# 「こらパ～」まつり実行委員会って？

## ～地域と学生に架け橋を～

高知大学のS.O.S認定学生団体「こらパ～」まつり実行委員会（以下、「こらパ～」）まつりと省略）について代表の池田菜摘さんにお話を伺いました。

「こらパ～」まつりは高知の地域と大学生をつなげるきっかけの役割を担おうと活動している団体です。高知県内の地域の活動に興味があつても、実際どのようにつながればいいのかわからないと感じている大学生や、若い大学生の力が欲しいと考えている地域の方。このような双方の考えをコラボしようとするのが「こらパ～」まつりです。「こらパ～」とは「コラボレーション・サポート・パーク」の略称であり、普段の生活ではあまり関わることのない県内各地域と大学生の架け橋となり、地域と大学生の距離を縮めることをモットーに活動を行っています。また地域と大学生が互いに関わり合うことで生まれる新しいものの見方、価値観、さらには新たな活動のきっかけにつながることを考えた企画を提供しようと活動に力を入れています。

### みんなでつくる「交流鍋」

これまでには高知県内の地域産の食材を使つた「鍋」を囲みさまざまな人と交流でぎる祭りを学内で開催することで、高知県にどのような地域があるのか、またその良さがどんなところにあるか、ということを自分たちなりに伝える活動を行ってきました。最近では「鍋」を使った活動も定着し、「こらパ～」

5月26日に高岡郡中土佐町大野見地区の方と高知大学の学生との交流会を企画し、「田舎ずし」づくりや使わなくなつた瓦に絵を描く「瓦アート」の体験を行つてきました。参加した学生からは「地域の方との交流が楽しかった」「大野見は最高だった！」との声をいたぐると同時に、地域の方からも「若い人と交流できることで若返つた気持ちになつた」「また学生との交流を持ちたい」という意見をいただき、「こらパ～」まつりが目標としている地域と大学生との架け橋になれたのではないかと思っています。今後もこのような意見をいただけるような活動を広げていけるようにしていきたいと考えています。

まつりという団体の知名度も大学内では上がりつきました。5月には地域を訪問して交流を持つという新しい企画も取り入れ、これまで以上に地域と大学生との「つながり」が深まるような活動にしていくことをめざしています。

### 新たな架け橋をつなぐ

#### S.O.S認定団体とは：

Students for Self-help and Official Supportの略称。NPO活動と学生相互支援（ピア・サポート）活動組織を指している。高知大学ではこのような活動をしている団体を支援するためにS.O.S認定活動を行つており、S.O.Sに認定されると大学から活動支援金や、アドバイスが受けられるような体制が整えてある。

#### 「コラボレーション・サポート・パーク」とは：

正式名称はリエゾンオフィス「コラボレーション・サポート・パーク」で、大学総合教育センターが運営する学生と社会の協働実践を組織的に支援するための仕組みのこと。高知大学朝倉キャンパス学生食堂「IKUSU」2階にある。





# サポートセンター事業の あ・れ・こ・れ

## ～ボランティアガイドンス2012～

「自分にあったボランティア活動を見つける人」と「ボランティアを募集したい団体」との出会いの場です。  
“ボランティアに興味のある人”“ボランティアをしたい！と考えている人”“ボランティアってどんなものがあるのかな？と思っている人”気軽に参加して出会いを見つけませんか。

### 【プログラム】

- 10:10 主催者あいさつ  
オリエンテーション
- 10:20 ゲストトーク  
★ボランティア“はじめの一歩”講座
- 10:40 ボランティア団体の活動紹介(対話形式)  
★1 団体 4 分×15 団体程度
- 11:40 団体のブースごとに個別相談
- 12:30 終了



- ☆特定非営利活動法人 NPO84 プロジェクト
- ☆傾聴ボランティア あおぞら
- ☆特定非営利活動法人こうち音の文化振興会
- ☆高知 SGG 善意通訳クラブ
- ☆子育てネットワークたまごくらぶ
- ☆すまいる・わん
- ☆特定非営利活動法人 まあるい心ちゃんじの応援団

そのほかにも、さまざまな分野から15 団体程度の参加を予定しています。

**申込締切→8月22日（水）**

★今年も「ボランティアフェスティバル 2012」の  
プログラムの一部として開催します★

**【日時】** 8月26日（日）10:10～12:30

**【場所】** ふくし交流プラザ（高知市朝倉戸 375-1）

**【入場】** 無料

**【主催】** 高知県ボランティア・NPO センター

高知市市民活動サポートセンター

**【お問合せ/お申込み先】**

高知市市民活動サポートセンター 担当：又川

TEL : 088-820-1540

FAX : 088-820-1665

E-mail : npojm2@siminkaigi.com



## ～こどもたちが運営するまち 『とさっ子タウン2012』～



異年齢間のこども同士のコミュニケーションの場や生まれ育った地域に対する誇りを持てるような「きっかけ」をつくることを目的に、小学4年～中学3年のこども約300人を対象に、年度に1回開催しています。

「とさっ子タウン」では、市役所、ハローワーク、銀行、税務署、新聞社や飲食関係の仕事、創作関係や娯楽関係の仕事を、こどもたちがそれぞれの専門家から教わりながら体験するとともに、市長選挙・議員選挙を行い、議会を開催して政治や都市運営など、こどもたちが協力しあいながら、自分たちでまちをつくることができ、変えることができるということを体験してもらうことをめざしています。

**【日時】** 2012年9月8日（土）9日（日）

両日とも 11:00～17:30

**【場所】** りょうまスタジアム（高知市大原町45）

**【お問合せ】** 高知市市民活動サポートセンター

TEL : 088-820-1540

### ※高校生サポートスタッフ募集！

(当日2日間参加可能で、事前に開催する説明会に参加可能の方。)

ご協力いただける方は、高知市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。



# 編集後記

今日は月一回の編集会議。スタッフが集まり、内容の検討を行っていますが…

あれあれ？右と左の写真では、だいぶ様子が違うようですね。

ここで問題です！



2つの写真には10個の違いがあります。見つかりますか～？

正解は、高知市市民活動サポートセンターのホームページ

<http://www.kochi-saposen.net/> 上にて

7月31日から発表します！

#編集スタッフの

## つぶやき



@かめのこ

いつもギリギリにしか行動できない私。そのせいで先日とうとう大きな失敗をしてしまい、本気で反省中…成長するってこういう事なんでしょうかね？



@あゆうらら

何か世の中のお役に立てる事はないかと、ネット検索を何度も繰り返しながら、「NPO高知市民会議」に辿り着きました。この4月に会員になり初めて出席した総会・交流会・懇親会では、知っている方もいない為か、かなり緊張していました。でも会員の皆様から暖かいお声を掛けて頂きとても嬉しかった事を覚えています。勉強させて頂きながらの出発ですが、よろしくお願ひします。



@のむら

思い通りにならないことを引き受けることのむずかしさ。  
たじろがず一步前進、人生楽しめたらいいですね。



@しのみや

復興！復興！と叫ぶが、復旧すらままならない東北。未だ復興のビジョンがみえないのだろうか。行く度、諸手を挙げ笑顔で迎えてくれるが、双手の向こうにまちの惨状がそのまま。いやはやなんとも東北人の強さに感服しつつ、深い歎がみせる笑顔に心が軋む。

発行

高知市市民活動サポートセンター

認定特定非営利活動法人

NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかのじょう庁舎2階

月～金／10:00～21:00 土／10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : npokochi@siminkaiji.com

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています

@おおの

知人の結婚式に両親を送っていくと、なんと結婚相手は同級生!!(式場でウェディングドレスを着た彼女に再会するまで知りませんでした….) 頭見知り程度の関係でしたが、これを機に仲良くなれるかなと思います♪



@なかごし

最近課題やコンペで思うように作品制作出来ないときもあるけれど、やっぱり何かを考えて創ることが好きだと改めて実感します。



@事務局

NPO高知市民会議が、国税庁より高知県第1号の認定NPO法人の認定(2012年7月1日付)を受けることができました。NPO高知市民会議に寄付をしてくださった皆さまのおかけです。心より感謝申し上げます。



© Silhouette Design